

## 給餌方法

豚房で飼育されている豚は、多くの難題を抱えています。まず、食べる場所を見つけ出さなければいけません。豚房が暗い場合、見つけれられるでしょうか？ 移動して48時間は常に照明を点けておきましょう。また、給餌方法が変わることも問題です。例えば、リキッドフィードの食べ方を覚えなければいけません。リキッドの場合には、毎回味と内容が変わります。さらに、グループの中での自分の場所を探す必要もあります。このように多くの変化があることが導入後の難しさの一つです。



豚にとって簡単な方法を選ぼう。給餌器を増やすことで、導入後の立ち上がりの問題が減少する。若い豚は、食べるスピードが遅く、回数も多いためだ。給餌器は豚が見つけやすいものの方が有利。そのため、暗い色の給餌器よりは、明るい色の給餌器の方が食下量は上がる。

## ドライフィード（乾配飼料）

あまりにも利用頻度の高い給餌器（豚が食べている時間が80%以上）は、ストレスの原因になります。豚は急いで少ない量しか食べられないため、1日増体重が減少します。倍飼い（ダブルストック）する場合には、給餌器を追加することで、増体の減少を予防できます。ガイドライン：リキッドフィーダーの場合「給餌器1台に対して肥育豚11頭まで」ドライフィーダー（給水器なし）の場合「給餌器1台に対して肥育豚12頭まで」給餌器が深すぎる場合には、小さい豚が前脚を中に入れて餌を食べるため、餌が糞で汚れてしまいます。



餌の何%かはこぼれて無駄になっている。自動給餌器は毎回8～10粒のペレットが落ちるくらいがちょうど良い。ピット下を見て餌がこぼれていないかチェックしよう。全体の8%程度の餌が、無駄になっている可能性がある。これを飼料要求率として換算すると、優に0.3に相当する量だ。

## 豚はどんなふうに関を食べるか

| 豚/状況    | ゆっくり | 速い | 回数多く、少量 | 回数少なく、多量 |
|---------|------|----|---------|----------|
| 若い豚     | ○    |    | ○       |          |
| 日齢が進んだ豚 |      | ○  |         | ○        |
| 体重の軽い豚  | ○    |    |         |          |
| 体重の重い豚  |      | ○  |         |          |
| 小群      |      |    | ○       |          |
| 大群      |      |    |         | ○        |



## 見て、考え、行動しよう！

### この給餌器の設置場所は適切ですか？

給餌器の設置方法は2通りあります。1つ目は、写真に示したように、給餌口をタタキ床に向けて、通路側の面に設置する方法です。この配置の場合、給餌器のチェックをしやすい一方、豚にとっては、餌を食べる時に寝ている仲間を押しつけて給餌器まで行かなければならないという欠点があります。2つ目の配置は、給餌口をスノコ床に向ける方法です。この場合には、仲間がそこに寝ていることはありません。しかし、後者の配置では給餌器をチェックしにくいいため、管理者が給餌管理に十分に慣れている場合に行いましょう。

## それでもまだ十分ではない…

豚の健康上の問題は他にもまだあります。病気は直接の症状を起こすだけでなく、その後の発育を遅らせます。跛行、疥癬（かいせん）、髄膜炎、胃潰瘍は、その経路は違えども、すべて発育遅延の原因になります。直接的な原因だけでなく、それに起因する間接的な問題についても考慮し対策しておくことで、病豚の回復がさらに期待できるでしょう。

### 胃潰瘍

肥育豚の4分の3は多かれ少なかれ胃潰瘍を患っていて、発育に少なからず影響を及ぼしています。胃壁がダメージを受けると、胃が破裂する場合があります。致命的な出血を引き起こします。胃潰瘍は様々な原因で起こります。特に重要なものはストレス（群編成、温度変化など）、そして栄養です。胃潰瘍は、飼料の粒度が細かい場合、ビタミンEとセレンが不足している場合、そして粗繊維の割合が不足している場合に起こります。また、ヘリコバクター属細菌が関連しているケースも多いといわれていますが、まだ証明はされていません。給餌

器の口数に対して収容頭数が多すぎたり、強い豚に餌を取られて食べそびれてしまった場合など、食欲があるのに餌を食べられない時に胃潰瘍のリスクがあります。このような状況は避けましょう。



1頭当たりの飼育面積が小さすぎる密飼いの場合には、豚に大きなストレスがかかり、胃潰瘍のリスクが高まる。



レンサ球菌症や大腸菌症では神経症状が表れる。神経症状を発症すると、餌と水を見つけることが難しくなる。できるだけ早く治療して、十分に水を与えれば、回復の可能性が高まる。抗炎症剤も回復を助ける効果がある。



足の悪い豚はすぐに順位が落ちてしまう。このような豚を観察していると、立ち上がって歩くことに、とても苦勞している様子がわかる。動くと脚が痛むためだ。片足をかばっている状態（片足を上げ、壁にもたれかかっている）は、まだ軽度なシグナルだが、給餌器まで行く回数が減るため、発育が遅れる。このような豚を見つけたら病豚房に移動し、治療しよう。